

岐阜県土岐市

新庁舎建設  
プロジェクト

WORKSHOP  
REPORT

2016.2.9



DAY 1  
2015.12.17



DAY 2  
2016.1.15



DAY 3  
2016.2.9

最終回である第3回目は、各チーム毎に今後の活動スケジュールを考えました。

# Day 3

今回もまずは前回のふりかえりをし、ワークから導き出した新庁舎のコンセプト「生活」を豊かにする市庁舎」を伝えました。その後、自分をモノに例えて紹介する自己紹介をし、最終回のワークに取り組みました。ワークでは、5つのチームに分かれ、それぞれこれからどのように活動を進めていくのがよいか、具体的なスケジュールを考えました。

## PROGRAM 1

13:30~

### 前回のふりかえり

前回の内容をまとめたニュースレターを配り、話し合った内容について共有しました。現庁舎のよい点と改善点について、そして新庁舎をどのような場にしていきたいかについて考えたワークの結果をおさらいしました。



ニュースレターを配布し、説明

## PROGRAM 2

13:45~

### 新庁舎のコンセプト

これまでの話し合いから、「生活」を豊かにする市庁舎」というコンセプトを導き出しました。建築の核となる部分に「生活の力」を当てはめて、これからの設計に取り組んでいきます。



新庁舎のコンセプトを参加者と共有

## PROGRAM 3

14:00~

### 自己紹介／他己紹介

#### 自分の役割をモノに例えて伝えてみよう

より深くお互いのことを知るため、自分の普段の生活での役割を「モノ」に例えて紹介しました。各テーブルで自己紹介したあと、全員に向けて他のメンバーのことを紹介しました。



他のメンバーに他人のことを紹介

## PROGRAM 4

14:20~

### ワーク

#### 今後の活動スケジュールを考えよう

5つのチームに分かれ、これからどのように取り組んでいくのがよさそうかを話し合いました。

#### 横軸

- すぐにでもできること（半年以内）
- 少し時間がかかること（1年程度）
- じっくりと取り組みたいこと（3年〜）

#### 縦軸

- 1人 ○10人 ○100人



チームに分かれて活動スケジュールを検討

## PROGRAM 5

15:40~

### 発表・共有

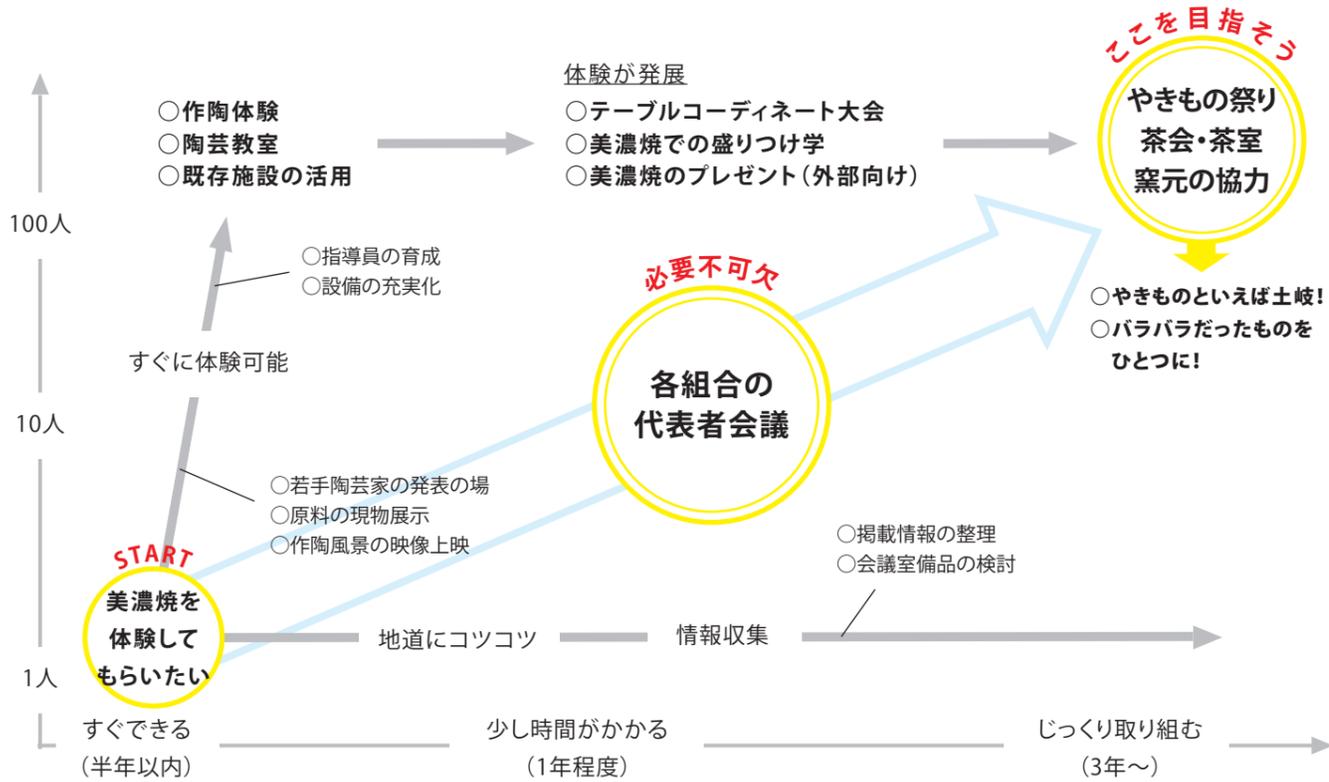
各チーム毎にワークで検討した内容を模造紙を使って美しくまとめ、その後お互いに内容を発表しました。



模造紙を用いて、ワークの結果を発表

# これからの活動スケジュールを考えよう！

## A: 情報が体験できる場



### コーディネーターからのコメント

情報発信を考えると、どうしてもあれもこれも伝えたい、と思ってしまうものです。今回のように「美濃焼のよさ」を伝えることに絞ることで、受け手にも情報が伝わりやすくなりそうです。とてもいいことだと思います。また、ゴールへの道筋が3本あるのも大切なことだと思います。地道にコツコツとやっていきたい人、イベント的に多くの人向けにやっていきたい人。運営のコアメンバーとしてやっていきたい人。色々な関わり方ができるようにしておくことは、活動を長く続けることの最大のコツかもしれません。そのために、軸となる「各組合の代表者会議」はぜひとも実現していただきたいものです。

5つのチームに分かれ、それぞれのテーマごとにこれからどのように活動していくのがよさそうか、縦軸に「人数」、横軸に「時間」を設定して取り組みました。

## B: 学び・生きがいにつながる場

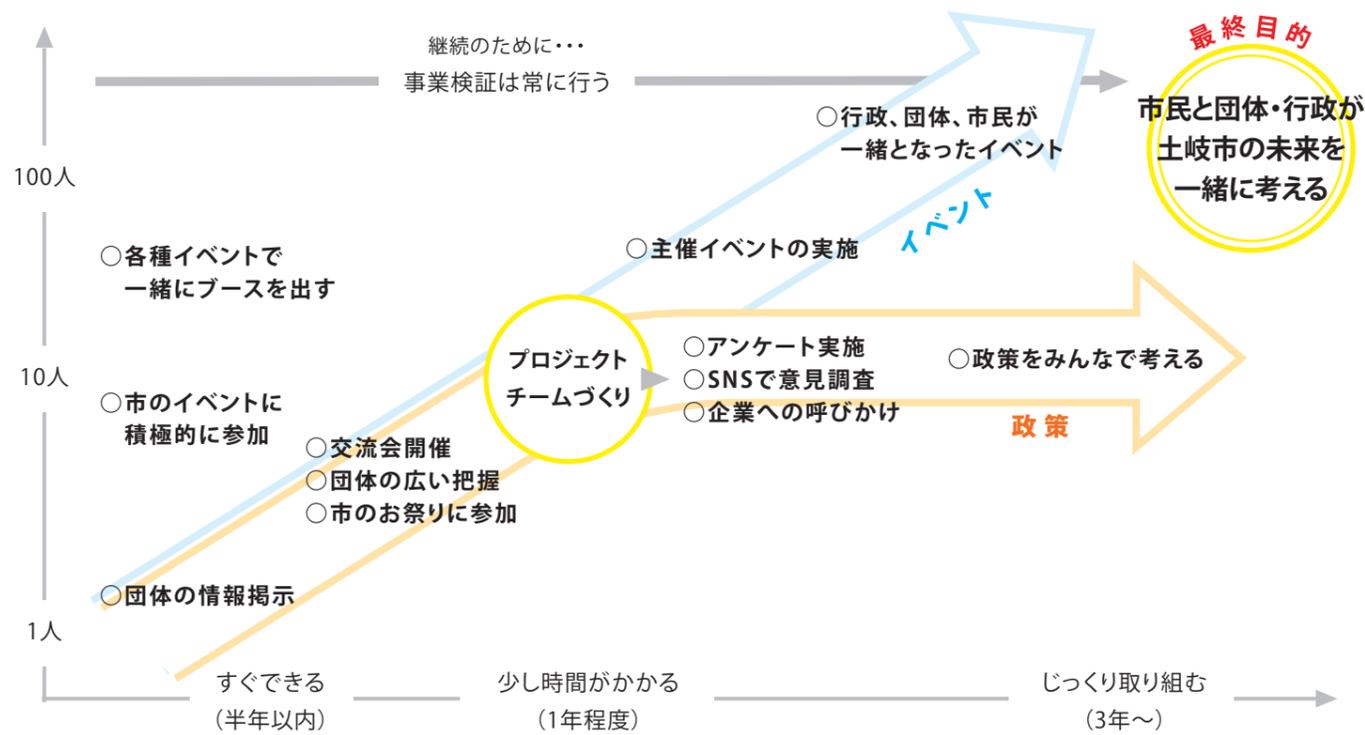


### コーディネーターからのコメント

学びや生きがいのためには、自分がやっていることを伝える機会や、色々なことを気軽に相談できる場所が必要であり、それは気軽に訪れることのできるカフェのような場所なので、というアイデアが非常に魅力的です。そのカフェに、オープンスペースやステージがあることで、より多くの方に「ここは自分の居場所である」と感じてもらうことができるのではないのでしょうか。このカフェへの参加の仕方として、プレーヤー、サポーター、運営メンバー、コーディネーター(調整役)という複数の選択肢があることもとてもいいと思います。そうすることで、色々な方が自分ならではの役割を見つけてくれることができ、結果として自主的に関わり続けていくことができそうです。

# これからの活動スケジュールを考えよう！

## C:市民と団体、行政の距離を縮める場



### コーディネーターからのコメント

最終目的をしっかりと見据えたうえで、イベント軸と政策検討軸に分けて考えた点がとてもすばらしいと思います。より多くの方に広めていくためには協働から生まれたイベントが必要ですし、協働の動きを下支えるために行政と団体・市民と一緒に政策を検討していくことも必要です。また、すぐに2つのチームに分かれて動くのではなく、まずは約1年かけてリサーチや交流、実験などを重ねて検証してからプロジェクトチームを立ち上げるという動きもよいと思います。1年の間にメンバー同士の意思共有も図ることができますし、志の近い仲間を見つけることもできます。事業毎に検証を行っていきながら、ぜひとも土岐らしい道を見つけてもらいたいです。

5つのチームに分かれ、それぞれのテーマごとにこれからどのように活動していくのがよさそうか、縦軸に「人数」、横軸に「時間」を設定して取り組みました。

## D:人が集まりたくなる場

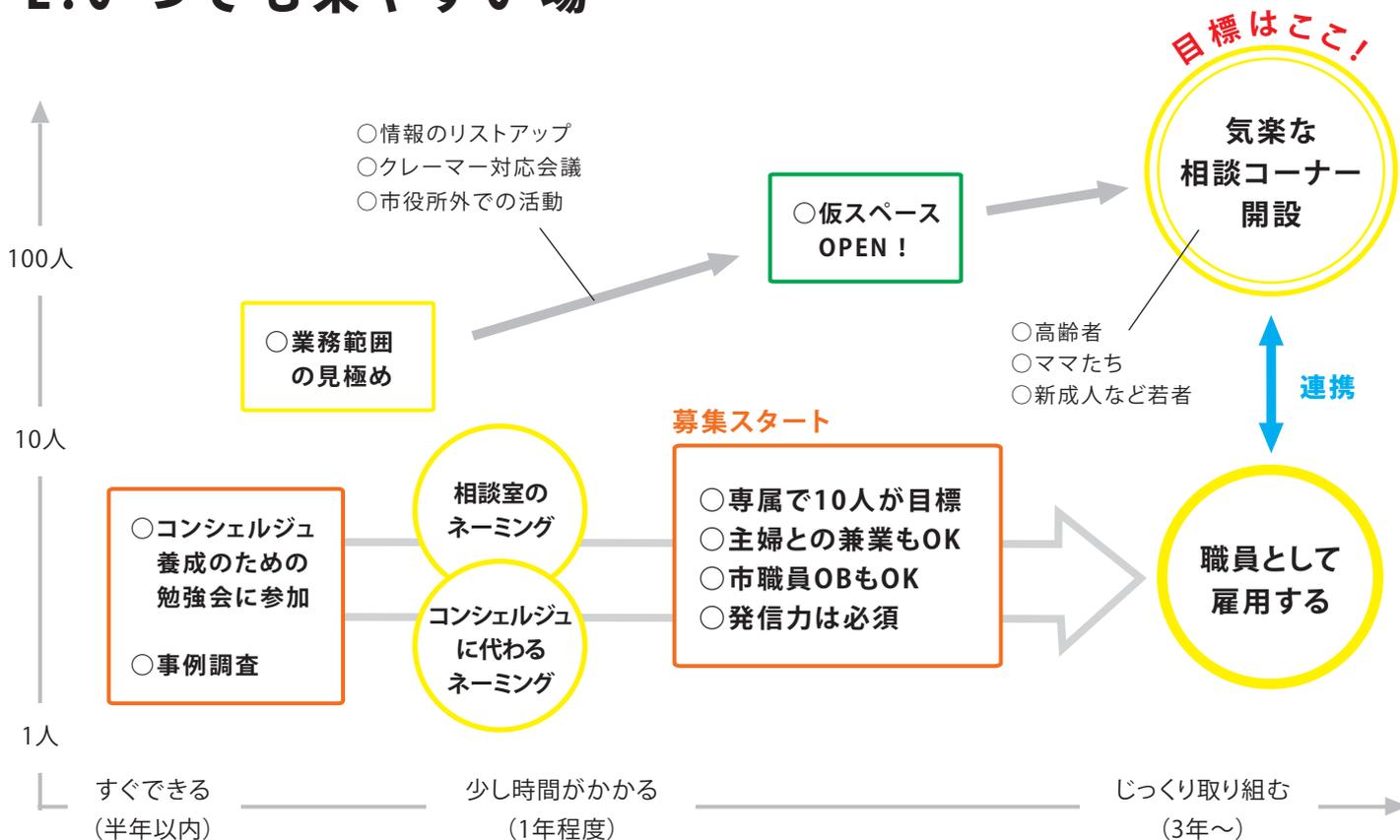


### コーディネーターからのコメント

とてもいいなと感じたのは、まずは現在活動している市内の他の取組み(認知症カフェなど)を勉強してみようという考え方です。新しいものを生み出していくための第一歩は、既存の取組みをしっかりと調べることから始まります。そこで「人が集まる」ことのヒントを見つけていただきたいです。このチームはハードとソフトが共存する場づくりが目的ですので、ハードも同様にリサーチや事例調査から始めるのがよいと思います。そして、調べたあとは小さく試してみる、というサイクルをつくって活動を進めていこうとまうききそうです。将来を見据えて、今のうちから外国語を習っておこう、というバックキャストの考え方ができていることにも驚きました。

# これからの活動スケジュールを考えよう！

## E:いつでも来やすい場



### コーディネーターからのコメント

「気楽な相談コーナーをつくりたい」という願いは比較的簡単に実現できそうな印象を与えますが、実はそのためにはいくつかの準備があるのだ、ということを知っているのがすごいです。気楽な相談コーナーのためには、場のコンセプトをしっかり理解し実現できる職員(スタッフ)が必要である。そしてそのためには育成のための事業も必要であり、そのためには自分たちの勉強も必要である。このように必要な要素を未来から考えることができているので、きっとブレることなく進めていくことができるのではと思います。ここで新しく生まれる雇用が、今までの働き方に縛られないものになりそうでワクワクしています。